

次期中間処理施設整備事業の用地選定に関する意見書

平成25年12月12日提出

平成21年度から平成23年度まで足掛け3年の間、印西地区次期中間処理施設整備検討会で中間処理場の候補地の検討が行われた。各地方から推薦された5か所の基準地を、夫々色々な項目毎に検討し最も優れた地点が推薦されました。所がこの地点は地元住民の反対の声に妨げられ、未だ着工出来ずにいる。

所が、再び新しく委員会が立ちあげられ候補地の選択がはじめられた。新しい候補地を選ぶに当って前検討委員会の一人として提案します。

候補地として第一に考慮することは住民の少ない地域。準工業地区、山林地区等。第二に交通、搬入路の便良いこと、第三に経済的に効率のよいことである。その他に、色々と検討をする項目が数多くあるが、前の三つの項目と比べて候補地として選ぶのに大きな差はない。

前回の比較検討地5箇所を色々と沢山の項目毎に調査し検討した結果が報告され委員会として候補地を1か所を推薦したが、未だ結論が出ずにいる。原因はなにか。地元の同意が得られない事が原因ではないかと考えます。

前回の委員会の推薦の候補地が進まない以上地元の賛成が得られる土地を検討すべきだと考えますが。旧印旛村、本埜村からの候補地の再検討などされたら如何か。

旧印旛村の推薦地は、道路は少し狭いが、近くに一般廃棄物最終処分場があり処分の効率の良い利点がある。

旧本埜村の推薦地は国道464に近く、準工業地域にある。隣は鉄道車両基地になる。土地の高さに高低差があるが土地の価格は、他の候補地と比較して低い。地主は一人と聞いている。地盤の設計を効率良く計画することで経済的にも適していると考えます。

検討の余地があると考え、候補地として提案します。

以上